

未来塾ながの新聞 in 韓国

編集・発行：信濃毎日新聞社



県教委の高校生向けキャリア教育「未来塾ながの」で昨年11月17～23日、県内の高校生46人が韓国を訪れました。首都ソウルを中心に、ホームステイや学校訪問などを通して同世代と交流した生徒たち。北信地方の生徒が書いた記事を紹介します。

韓国での一週間はとても充実していてたくさんのお会いや経験をすることができました。初めは不安もありましたが、韓国の人が私達を温かく受け入れてくれ、すぐにその不安は消えました。日韓関係が悪いと言われる中、メディアからの情報だけだと韓国に対して悪いイメージを持ってしまったり勘違いしたりしている人も少なくないと思います。私もそうでした、韓国に抵抗があり、偏見をもっている部分がありました。

だけど、実際に自分の目で韓国を見て、友達と話をすることで偏見もなくなり、韓国の人が好きになりました。

私がこの研修で一番印象に残ったことは、ホームステイです。

初めてのホームステイはとても緊張しましたがすごく素敵な出会いでした。私のホストファミリーは3人兄弟と両親の5人家族。兄弟のいない私にとってはとてもにぎやかでうらやましい家庭でした。

たった一日という短い時間だったので、あまり話す時間はなかったけれど、お父さんが今度日本に来たいといってくれたのがうれしかったです。だからぜひ、日本に来た時は長野県にきてもらい、「お・も・て・な・し」をしたいとおもいます。せっかくの出会いをこれっきりにせず、帰ってきてからも連絡をとってこれからにつなげていきたいと思いました。

(山岸寿里・中野西高校2年)

いつかおもてなしを



韓国で過ごした1週間は、私にとって日本とは違う国の風習や文化に触れる貴重な体験となりました。また、報道で伝えられているような日本人への敵対意識などはまったく感じられず、むしろ日本人である私達を心の底から歓迎してくれていることが率直に伝わり本当にうれしかったです。

今回の訪韓で一番印象深かったことは、なにより韓国の人々の人柄です。遠慮がちで奥ゆかしいことを好む日本人とは違い、韓国の人々は明るく積極的に伝えたいことは言葉を濁さず、はっきりと伝えます。

また、真乾高校の生徒との交流や、ホームステイを通じ、肌を触れ合うようなスキンシップが多い

ことが分かりました。日本人と同じような顔やスタイルをしていますがどちらかというと欧米人に近い雰囲気を持っていると思いました。

控えめで大人しいと言われる日本人ではあっても、この研修に参加した46人の高校生はとても積極的で、自分をアピールすることに長けていました。こうした仲間と共に韓国に渡り円滑に交流できたことは、この先、日韓関係をより良いものにしていくはずで、日韓双方が民族性の違いを理解し、その上で明るく積極的にコミュニケーションをとることが大切だと思います。

(曾我部みらい・中野西高校2年)

百聞は一見にしかず



学校訪問やホームステイで、韓国の学校や家庭での生活を体験した中で、韓国は日本より進んでいる部分があることを痛感した。

ホームステイ先では言葉が伝わらなくても、ジェスチャーや日本のトランプで遊びながら意思を伝えられることも感じた。一方、ホームステイ先の生徒やその友達に話を聞くと、「日本のアニメ文化にはめちゃくちゃ興味がある」と話してくれた。「ポケモン」や「ワンピース」が人気のようだ。日本文化は世界で知られているがこれも日韓関係では大切なつながりだと私は思う。

学校訪問では一緒に授業を受ける形で交流したが、これは異文化を肌で体験し、韓国の人の

さらに上を目指す国際人に

考え方がわかる機会となった。例えば授業への意欲がものすごく高く、手を挙げる人も多い。また、隣の席の生徒のノートを見るとぎっしりと書き込んでおり、予習をしっかりと進めていることが分かった。日本人は真面目すぎると外国人からは見られるようだが、真面目でユーモアのあるのは韓国人だと感じた。

今回の訪韓では、すべて中身の濃い体験をすることができた。グローバルな視点で物事を見ることができた。また、日韓の歴史的背景も忘れてはならない。今回の研修をきっかけに、さらに上を目指す国際人になれるよう努力していきたいと身にしみて感じる研修だった。

(嶋田裕介・篠ノ井高校2年)



学校訪問での交流を通して見た韓国の高校生は積極的で正直、そして、とても優しくかった。廊下を歩いていけば、たくさんの生徒がそれぞれ知っている日本語で声をかけてくれた。美術の授業の時は作品制作に力を貸してくれ、体育の授業の時にはたくさんハイタッチをした。

言葉が通じなくても、仲良くなるには時間がかからなかった。韓国の高校生と交流できたのは一日半という短い時間ではあったが、別れ際にはお互いに涙を流すくらい仲良くなった。

日本と韓国は歴史的な問題を抱えている。そのこともあって、韓国は近くて遠い国とも言われている。私自身も、そんな韓国の高校生とうまく交流できるか不安だった。

しかし、今回のように実際に韓国の

同世代 心は近くに

高校生と交流してみると、通じ合う部分があり、似通うところがあるように感じた。抽象的な表現になるが、心は近くにあるような気がした。

若い世代の私たちがだからかもしれないが、今回の交流では現在の日韓関係を考えさせられるようなことはなかった。もちろん歴史上の問題をないがしろにはできないが、韓国に対して誤解している部分もあると思う。だから、私たちの世代から、韓国のことをもっと知るべきだと思う。

そして、私たちの世代や、交流を通じて知り合った韓国の高校生たちが、未来の日本と韓国を背負うような存在になるときに、今回の経験が小さな懸け橋となり、未来の日韓が本当の「近い国」になるように願いたい。

(伊藤未来・須坂高校1年)



私は、韓国訪問2日目のオドゥサン統一展望台の見学について書きたい。

私は、今まで北朝鮮はとても遠い国だと感じていた。それに、軍事的で閉鎖的な、かつての日本のような国としても、感じる部分があった。

「あれが北朝鮮ですよ!」とガイドの方に言われたときは、本当に自分の目で見られるのかと、とてもびっくりした。また、こんなに近かったんだ、と悲しくなった。

かつては北朝鮮と韓国は同じ国だったのに、今では家族でさえも川を挟んで話することや、行き来することが禁止されている。

韓国側から見る北朝鮮は、本当に殺風景だと感じた。山には木がほとんど無く(エネルギーのためや農地の確保のためや、人が逃げ出さないように監視するためだという)、住宅も数えるほどしか見当たらなかった。そ

の少ない住宅も、北朝鮮政府が展望台を意識して造ったのか、人は住んでいないという。「北朝鮮が外からの目を気にしているなんて…」ととても驚いた。

展望台の下の階にある展示室にあった「ベルリンの壁」にも衝撃を受けた。「なぜここに…?」と思ったが、説明を聞いて納得した。「ベルリンの壁」はドイツのベルリンを東西に分断していたものだが、東西ドイツの統一でなくなった。つまり、展示室にあった「ベルリンの壁」には、「いつか朝鮮半島も壁が壊され、統一されますように…」という願いがこめられているのだ。

オドゥサン統一展望台の見学を通して、韓国の人々の本当の思いを知ることができた気がする。これから、南北が平和的に統一されることを願いたい。

(松原優華・長野高校1年)

オドゥサン統一展望台の衝撃

訪問前は正直、韓国に行って大丈夫かなと不安がありましたが、実際に現地を訪れると学校の先生や生徒、ホームステイ先の方が温かく迎えてくれてうれしかったし、少しホッとしました。

初めての海外ホームステイは、1泊2日の短い期間だったのですが、仲良くなれました。

1日目は真乾高校の授業を体験し、放課後は近くの公園で遊んだり、楽しんだりして交流が深まりました!

その後、夕飯は、サムギョプサルをホームステイ先の家族の方と一緒に食べることができ、「食」についても勉強になりました。ホームステイ先のお母さんの漬けたキムチが美味しくて「マシッソヨ(おいしい)」と言ったら、

ホームステイ温かな歓迎

とても喜んでくれたのでよかったです。

日本についても話しました。韓国語がまだ下手だったのでジェスチャーや英語を使って説明したら理解してくれたので楽しく話せました。

2日目は、一緒に登校して、クラスにも連れて行ってもらい、あいさつをしたら元気な声で返してくれたので良かったです。

最後はみんなに「カムサハムニダ」と言ってから抱きしめてお別れしました。このホームステイでのたくさんの出会いで、私は温かさを感じることができました。とてもいい経験になりました。

(佐藤佑弥・中野立志館高校2年)



訪 韓研修5日目に真乾高校の訪問と生徒の家でのホームステイがありました。学校訪問では実際に2コマの授業を受けました。僕はサッカーと美術の授業でした。どちらの授業も英語で韓国の生徒とコミュニケーションをとりました。

日本についての質問を多くされる機会があり、自分の国や地域についてあまり分かっていないと感じました。ホームステイでは、ホームステイ先の家族が日本語を話せるので会話は楽にできました。お邪魔した家庭の生徒とは街中を散策したり、家でトランプをしたりして楽しい時間を過ごしました。家庭の温かさ、ぬくもりは万国共通であるということが分かりま

家庭のぬくもりは万国共通

した。

一方、今回の学校訪問やホームステイを通して、自分の英語力の低さにも実感しました。

韓国の生徒たちはとても親切で、日本の学生と何も変わりはありません。僕は、日本と外国との間には言語の壁が存在しなく、その壁は自分たちの努力次第で乗り越えることができると思います。それだけにおおさら、英語などの語学を学ぶ必要があると思います。

そして、百聞は一見に如かずです。実際に行ってみれば、みなさんも韓国の良さを実感できることでしょう。

(山口直樹・長野高校2年)



1 週間の韓国研修旅行では、日本と韓国の2つの違いを見つけ、そこからあらためて日本の良さを実感した。私たちが「当たり前」だと思っていることが実はとてもありがたいことであると感じた。

1つ目は交通についてだ。首都ソウルだったからかもしれないが、車がとても多く、道路が片側4車線だった。車間距離はとても狭く、車線を挟んだ隣の車は今にもぶつかりそうだったことに、私はとても驚いた。ガイドをしてくださった韓国の方が「日本より運転が荒いので、必ずシートベルトをしてください」と言っていたが、本当にその通りであった。車間距離が狭いの、隣の車線からは車線変更をしようとする車が迫ってきたり、1日に何度もクラクションを聞いたり、何度ハラハラしたことだろう。

2つ目はトイレ。韓国のトイレの便座

はほぼ例外なく、ホテルのトイレでさえ冷たかった。日本もすべてが冷たくないわけではないが、大体は温かいのではないだろうか。それから、韓国のトイレではトイレットペーパーをそのまま流すことができないところが多い。下水道が細く詰まってしまうからだろう。使ったトイレットペーパーを設置してあるゴミ箱に捨てることに、抵抗を感じた。

当り前のありがたさ

日本に帰ってきて、道路を見て安心し、トイレの便座があたたかいことに感動した。このように私が日本で当たり前だと思っていたことは、とてもありがたいことで、必ずしも当たり前なのではないことに気が付いた。そう思うと、日本語が通じて意思疎通ができることや今日の食べ物があること、すべてがありがたいことであると思った。

(田中陽子・長野西高校2年)



訪 韓研修のホームステイで、初めて韓国の人々の暮らしに触れた私は、日本、特に長野とのギャップにとても驚いた。

韓国では兵役があり、街へ出てみれば迷彩服を着た人がいたり高速道路で軍の車とすれ違ったりという衝撃があった。ホームステイ中も、兵隊たちが訓練をしている広場の横を通ったりした。

また、ホームステイ先の家族と近くのスーパーマーケットへ出かけた時も興味深かった。買い物用のカートは100円を入れて借りる方式だ。窃盗対策で、出入口には警備員が監視していて、少し怖かった。

「プラスワン」という売り方は、商品一つ買うともう一つついてくるというものだ。私はつい釣られて、大量に購入してしまった。

夕食はビビンバをこちそうになったが、私には辛くて少し食べにくかった。

文化の違いを実感

また、韓国ではトイレとシャワールームが一緒になっていて、少し使いづらかった。暖房器具は床暖房のみで、長野県よりも寒いはずなのにとても暖かくて驚いた。

そして、私が一番驚いたのは、朝ごはんはまだキムチと辛い食べ物が出てきたことだ。

韓国のみなさんとは今回、お互いに英語を使って、今までにないくらいに頭を働かせてみたが、うまく伝わらないことも多かった。これから社会に出るにあたって大切な要素が欠落していることが分かった。

今までの私は人との会話が苦手だったが、今回の研修で仲間と話す機会が増え、自分が成長できたと思う。一緒に韓国へ研修に行った仲間、先生、ツアーのみなさん、そしてホスト家族のみなさん、1週間本当にありがとうございました。

(那須遥・長野工業高校2年)

私は韓国語を学ぶつもりで今回の研修に参加しましたが、そのほかにも文化や企業、食などたくさんのお話を学びました。韓国に行く仲間と初めて会ったときは積極的になれず、韓国へ行ってもコミュニケーションをとれないのではないかと不安でした。しかし、みんなと仲良くなるうちに自信がつき、韓国の高校生との交流でも自分の語学力を駆使してたくさん話が出来て良かったです。韓国の高校生は、みんな元気で、温かく私たちを迎えてくれました。一緒に街へ出かけたり、夕食を食べたり、お土産をたくさんもらったりして幸せなひと時を過ごすことができました。

たくさんの方の出会いの奇跡

もし、私が迎える側になったら私が受けた以上のもてなしをしたいなと思いました。また企業訪問では、韓国で活躍する日本人のお話を聞きました。みなさんそれぞれに夢を持ち、世のため人のために働いていました。今回の研修では、普段できない体験をさせてもらいました。仲間たちと出会えたのも奇跡であり、韓国で出会えた人々との出会いも大切にしていきたい。さらに、出発前の研修会でお世話になったみなさんにも感謝しつつ、これからもいろんな人に出会っていきたい。

(倉井千奈・長野西高校2年)

韓国研修では、真乾高校2年のソ・ヨンスさんの家にホームステイした。

学校から家に向かう途中、自分とソ・ヨンスさんとその友達計6人でカラオケ店に行き、2時間ほど歌った。彼らは多くの韓国の歌を歌ってくれ、とても上手だった。そして驚いたことに、韓国のカラオケ店には日本の曲が多くあり、自分の歌いたい曲が簡単に見つけれられた。

ソ・ヨンスさんの家に到着すると、すぐに夕飯のサムギョプサルを食べた。この料理は、サンチュに肉や、キムチ、ごはん等をくるんで食べる料理である。とてもおいしかった。

夕食後、ソ・ヨンスさんと話した。ソ・

ヨンスさんは3年前にフィリピンから韓国に引っ越してきたと聞いた。

自分が英語で「どうやって韓国語を勉強したの?」と尋ねると、ソ・ヨンスさんは英語で「韓国に来た頃は、あなたのようにたどたどしく韓国語をしゃべっていたが、使っていくうちに自然と話せるようになったよ」と答えてくれた。それを聞いて、外国語を学ばなければならないと思った。

この訪韓研修でさまざまな場所を訪れ、韓国のことを全部ではないが、少しわかった気がする。この研修をきっかけに、将来の進路を決めていけたらいいと思う。

(岡村 舞弥・長野高校2年)

外国語を学ぶ決意



韓国では、真乾高校の生徒と交流しました。高校に到着すると、生徒たちはとてもにぎやかに私たちを迎えてくれました。彼らは私たちに積極的に話しかけ、肩を組んだり、手をつないで歩いたりと親しく接してくれました。今まで想像していた韓国人の性格とは大違いでした。

日韓関係が悪いと言われていますが、それを全く感じさせないくらいのもとてもいい印象を私たちに与えてくれました。韓国にはあまりいいイメー

交流ずっと忘れない

ジがなかったのですが、今はとても好きになり、いつかまた訪れたいと思いました。

今では韓国の友達と毎日メールやビデオ通話をしたりして、お互いの国の文化を教え合ったりしています。日本人も韓国のおおらかなところをまねた方がいいと思います。

この交流が一番心に残っています。これからもずっと忘れることはないと思います!

(高山ケント・中野西高校2年)

韓国へのホームステイで、韓国の高校生の積極性に驚かされた。今回、訪れた真乾高校では想像以上にたくさん的高校生と交流することができた。それも韓国の高校生の積極性のおかげだ。日本語で元気よく「こんにちは!」と言われ、学校に行く前の「仲良くなれるかな」という不安は消えてしまった。このように不安も消してしまうほどの元気さや積極性に感動した。

ホームステイ先の家族は「一生思い出に残る体験にしてほしい」と優しく迎え入れてくれた。ホームステイ先

人間の本当の魅力とは

で過ごした時間は、決して色あせることのない大切な思い出となった。

今回参加した誰もが最初は、言葉も通じないのに大丈夫かと緊張していたと思う。でも高校生やその家族の積極性、元気、またその中にある優しさに触れることで、緊張でこわばっていた顔も自然に和らいだと思う。こうした体験から、実際に交流してみなければわからない、人としての本当の「魅力」というものに気づかされた。僕自身も、そんな「魅力」ある人になりたいと思った。

(渡邊康貴・篠ノ井高校 1年)

